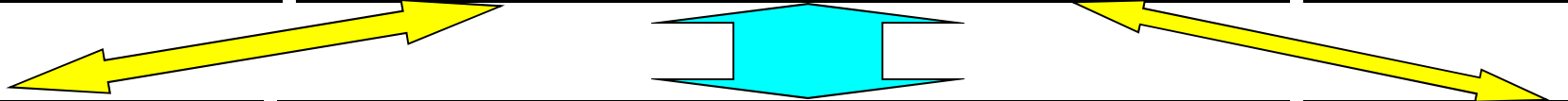


平成30年度 学力向上アクションプラン

A票

尼崎市立潮小 学校

学力調査結果等から見た 学力向上についての課題	課題解決に向けた学校の取組(基礎力の定着, 活用力の育成)			本年度の具体的な目標
	授業力向上への取組	学習習慣定着に向けた取組	その他の取組	
<p>○全国学力学習状況調査の結果から見られる課題 (1)学力調査 ・国語 根拠をもとに自分の意見をまとめたり, 自分の考えと相手の考えの共通点や相違点を捉えたりする力が弱い。 ・算数 活用力・応用力に課題が見られる。昨年と同様に, 図形領域において, 問いの意図は理解しているものの正答にたどり着いていないといった状況が見受けられる。 (2)質問紙調査 ・自尊感情の向上は図られているが, 全国的に見るとまだまだ低い。 ・読書や家庭での予習・復習はよくできているが, 計画的な学習への取組に課題が見られる。</p> <p>○保護者アンケートから見られる課題 ・基本的な生活習慣, 読書習慣や家庭学習への取組について, 学年が上がるにつれ, 家庭と学校との連携が薄れていく傾向が見られる。</p>	<p>○校内研究において, 全体研究会4回, ブロック研究会3回, 若手教員育成を目的とした研修会6回を実施するとともに, 国語科「書くこと」領域を中心として一人一授業を行い授業力向上を図る。</p> <p>○研究会・研修会においては, 外部講師を招聘し指導助言を仰ぎ, その後の実践に活かす。【(1)アクティブ・ラーニング推進支援】</p> <p>○全教職員の共通理解を図り, 全ての学年, 全ての教科において「潮スタイル授業」を基本として授業を行う。また, 児童の主体性を育成するために, 児童司会を取り入れた授業スタイルを研究する。</p> <p>○アクティブラーニングや課題解決学習を取り入れた実践の先進校視察を行い, その学びを自校の教育活動に反映させる。</p>	<p>○授業補助員とのチーム・ティーチングにより, 児童の理解を促し, 学習活動への参加意欲を高めさせる。【(2) 授業補助支援】</p> <p>○全児童及び各家庭に「自主学習のてびき」を配布し, 自主学習を含む家庭学習への取組の充実を図る。【(4) 学力定着支援】</p> <p>○放課後学習及び夏季休業中の学習会を実施し, 低学力の児童の学力底上げを図る。【(3) 放課後等学習支援】</p> <p>○生活リズムのチェックを実施し, 基本的な生活習慣の確立を図ることにより, 児童の学習活動等の活性化を促す。</p> <p>○6月と12月に生活リズムチェックの集計を行い, その結果を家庭へ情報提供することにより, 家庭と学校との連携を深め, 宿題・自習学習の定着を図る。</p>	<p>○ホワイトボードを使用して, 自分の考えを表現したり他者と意見交流したりする場と時間を確保し, 児童の思考力・表現力を育成する。【(1) アクティブ・ラーニング推進支援】</p> <p>○全学年共通の取組として朝学習の読書を徹底したり, 地域ボランティアによる読み聞かせを行ったりして, 本に親しむ子の育成を図る。【(5) 地域人材活用支援】</p> <p>○読書力向上支援員と連携し, 市の図書館を利用するなどして, 図書を教科指導等に有効に活用する。</p> <p>○スタディプランを作成し, 全児童及び各家庭に配布することにより, 学習習慣の定着を図る。【(4) 学力定着支援】</p> <p>○学力調査の結果分析を行い, 児童一人ひとりのつまずきや学級・学年の実態把握に努め, 授業改善につなげる。</p> <p>○学校だより等で, 学力調査や保護者アンケート等の結果を公表し, 家庭教育についての啓発と家庭との連携を図る。</p>	<p>○全国学力学習状況調査 (1)学力調査 ・「授業では, 友達と話し合う活動をよく行っていた」(H30年度目標値: 95%) ・「算数の問題がわからないとき, あきらめずにいろいろな方法を考える」(H30年度目標値: 80%) (2)質問紙調査 ・「自分にはいいところがある」(H30年度目標値: 78%)</p> <p>○児童アンケート ・「2学期のある期間の9日間のうち, 自主学習に何日取り組めたか」(H30年度目標値: 90%)</p> <p>○保護者アンケート ・「家庭において, 家庭学習や読書週間が身につくようにしている」(H30年度目標値: 3.2ポイント(4件法による))</p>



校種間連携	活用する支援内容		家庭・地域との連携
	支援内容	具体的内容	
<p>○幼保小連携担当を中心に, 研修等に参加し学んだことを全教職員に周知を図るなどして, 発達段階に応じたきめ細かな指導の工夫を行う。</p> <p>○中学校区による合同研修会を実施し, 緩やかな小中接続のために必要な方策を研究する。</p> <p>○中学校区において, 小中連携・小中連携を深めるとともに, キャリア教育の充実を図る。</p>	<p>(1)アクティブ・ラーニング推進支援</p> <p>(2)授業補助支援</p> <p>(3)放課後等学習支援</p> <p>(4)学力定着支援</p> <p>(5)地域人材活用支援</p>	<p>○自ら学び, 考える力をつける学習指導の工夫(元 京都女子大学教授 吉永幸司氏 5回) ○児童がホワイトボードを使用し意見交流を行う場と時間の保障</p> <p>○3・4年生の算数科中心とした嘱託員による同室複数指導</p> <p>○放課後学習 2h×週1回×20週 ○夏季休業中の学習会 4h×7日</p> <p>○「スタディプラン」や「自主学習のてびき」の作成と配布 ○ワークシートや学習プリントの作成と活用</p> <p>○地域ボランティアによる読み聞かせ(20人)</p>	<p>○学校だより等により, 学力調査や保護者アンケート等の結果を公表し, 保護者の家庭教育に対する意識の向上を図る。</p> <p>○各家庭に「自主学習のてびき」を配布し, 家庭との共通理解により自主学習の取り組みを強化する。</p> <p>○各家庭で生活リズム運動を児童とともにに行ってもらい, 基本的な生活習慣の確立を図る。また, その結果を公表し, 家庭での取組の強化を図る。</p>